

議員氏名：大沼 英樹

議案番号：陳情第6号

案 件 名：ウォータースタンドについて

討論内容：

私も、陳情第6号に対して採択賛成の立場で討論をいたします。

学校に必要な備品は行政が整備すべきものだと思いますけれども、二宮町では、長年PTAの寄附に頼ってきたということです。PTAが組織されていない、存続していない学校もありまして、その部分にも疑問を感じます。

近年の猛暑は、子どもたちの健康と命を直撃する深刻な環境要因です。教室にもエアコンが設備されたとしても、子どもが水筒1本で1日を過ごせないことは容易に想像できます。聞けば、氷を多めに入れるようにとの指導があったと聞きます。しかし、氷を増やせば、その分飲める水分は減ってしまいます。実際に子どもたちに聞いても、朝、学校までに空っぽになると聞いております。陳情者は経過時間と氷の残量を実験し、示してくれました。しかし、学校側は水道の水温すら測っておりません。これでは子どもの生活実態を直視しているとは言えないかもしれません。冷水機を取り付けたとしたら子どもが群がるといった発言も、設置を避けたい理由づけのように聞こえました。

町は今年度、「こどもまんなか元年」と掲げております。しかし、予算化された子ども向けの施策に、なるほどと思うような事業はほとんどなく、半期の9月に保護者からこのような陳情が提出されたこと自体、行政と教育委員会の後手対応を如実に示すもので、恥ずべきことだと思います。子どもの健康と安全は、善意や寄附に頼るだけではないと思います。行政が責任を持って先手で整備し、安心して学べる学校環境を保障すべきと考え、賛成をいたします。以上です。